

# SIGN POLICY



神戸大学

サイン関連資料



# 神戸大学サインマップ取扱マニュアル

## (趣旨)

神戸大学の学内案内サインマップ、ホームページ掲載マップ、大学案内マップ等を統一させ学内利用者を目的地までスムーズに誘導することを目的に整備する。

## (対象団地)

建物数が多い六甲台キャンパス（六甲台1、六甲台2、鶴甲1、鶴甲2）、楠キャンパス、名谷キャンパス、深江キャンパスとする。

## (サイン用マップ)

マップは建物配置図型と俯瞰イラスト型の2種類とし、学内案内サインは建物配置図型とする。

## (サイン情報)

### 1) 建物番号

- ・六甲台、楠、名谷、深江の各キャンパスの建物に通し番号を付ける。
  - ・六甲台キャンパスは北から鶴甲2→鶴甲1→六甲台1→六甲台2の各キャンパスの各ブロックを順番とし、六甲台キャンパス各ブロック及びその他のキャンパスは一番北側を1番として北から南、西から東の原則で建物番号を付与する。
- ただし、六甲台キャンパスの4ブロックは通し番号とする。

### 2) 建物名称

建物名称については資産管理担当部局にて決定した名称とし記載時は、上に日本語、下に英語のワンセット表記を基本とする。

### 3) その他

詳細は別冊のサインマップ作成編によるものとする。

## (サイン情報の更新)

サイン情報の更新は毎年1回、5月1日を基準日とする。

## (サイン更新の担当)

- 1) 大学ホームページ、大学便覧については広報室が担当
- 2) サインマップデータ（原図）、学内案内サイン（屋外設置分）については施設部が担当
- 3) 部局ホームページ、各種便覧、上記以外のサインについては各部局が担当
- 4) 建物名称英語表記の最終確認については国際部が担当

## (サイン更新費用)

サイン更新の費用は、各々の担当が負担する。

## (雑則)

このマニュアルは平成27年4月1日から施行する。

学内案内サインマップ、ホームページ掲載マップ、大学案内マップ等の全面更新は、平成28年4月1日を目標とする。

# サイン用マップ (イメージ)

## 建物配置型



## 俯瞰イラスト

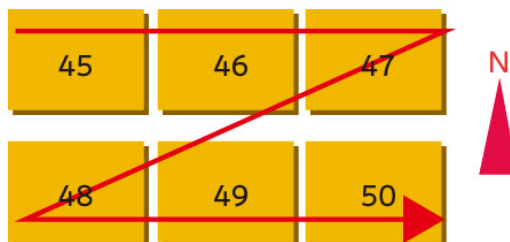


# サイン情報

## 建物番号付与イメージ

### 1) 建物番号

- ・ 六甲台、楠、名谷、深江の各キャンパスの建物に通し番号を付ける。
  - ・ 六甲台キャンパスは北から鶴甲2→鶴甲1→六甲台1→六甲台2の各キャンパスの各ブロックを順番とし、六甲台キャンパス各ブロック及びその他のキャンパスは一番北側を1番として北から南、西から東の原則で建物番号を付与する。
- ただし、六甲台キャンパスの4ブロックは通し番号とする。



## 建物名称表記イメージ

上に日本語、下に英語のワンセット表記を基本とする。

1 本部（事務局，保健管理センター）  
Secretariat / Medical Center for Student Health

# SIGN POLICY



神戸大学

サインマップ作成編



# CONTENTS

はじめに

- 2 サインシステム
- 3 本体基準(1) 大きさ
- 3 本体基準(2) 素材
- 4 表示基準(1) 言語と大きさと比率
- 4 表示基準(2) 文字の種類
- 4 表示基準(3) ピクトグラム
- 4 表示基準(4) キャンパスカラーの設定
- 4 表示基準(5) コントラスト
- 4 表示基準(6) 向き
- 4 表示基準(7) 管理
- 4 表示基準(8) 更新
- 5 学内案内サインデザイン案
- 6 建物表記デザイン案

各種デザインは、基本的に「サインマップ作成編」によるものとする。  
但し、登録有形文化財施設など、デザイン等を別途考慮すべき場合については、この限りではない。

## はじめに

「サイン」は目印、表示、標識などを意味しており、特定の環境において、人々の目的地への到達、行動支援の様々な情報を伝える媒体である。大学においては、数多くの研究棟や諸施設へのアクセシビリティを高めるために利用される。

サインデザインにおいては、「使いやすさ」と「独自性」がその評価において重要な位置を占めている。しかし大学という環境において単に「使いやすい」だけでは、優れたサインに繋がらない。

今回、神戸大学サイン計画においては、大学を訪れる利用者の身体的特性、条件や、そのサインの利用方法等の点から詳細な検証を行い、「分かりやすい」デザインを検討を行った。その中でユニバーサルデザインの考えに基づいて必要な条件を整理し、真に使いやすいサイン計画をここに定める。

達成目標

誰もが使いやすいサインデザイン

ユニバーサルデザインの7原則に基づいた解釈から  
サインにおける優先項目を基に対象を見つけ出す。

### ◆7原則の中の優先項目

1. どんな人にも公平に使えること
2. 使う上での柔軟性があること（利用における柔軟性）
3. 必要な情報がすぐに分かること（認知できる情報）

#### ▶ どんな人にも公平に使えること(大学に慣れない人の例)

- ・ 入学間もない、学内の土地勘が薄い新入生、新入職員。
- ・ 学内の特定の施設に出入り業者。
- ・ 段差や坂道での移動に制限がある肢体不自由者、高齢者。
- ・ 小さい文字、高い位置の文字を認識することができない視力が低い人。
- ・ 色や光の認識に制限がある色覚障害者。
- ・ 日本語が正しく判断できない外国人が留学生

#### ▶ 使う上での柔軟性（考えられる利用方法）

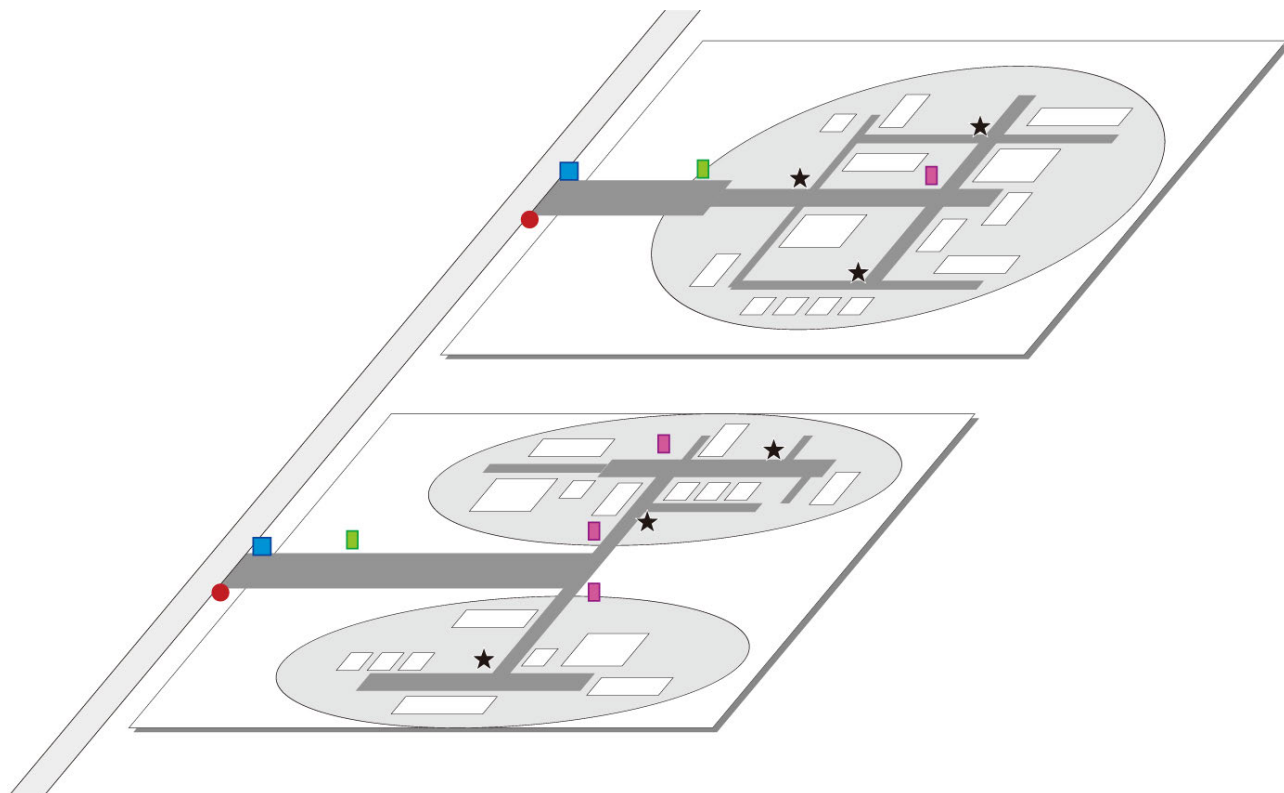
- ・ 暗い場所でも判断できるように照明を併設する。
- ・ モノクロコピーしても、重要な情報は他の情報に埋もれない。
- ・ 文字の長さによって情報が崩れない設計を行う。
- ・ 新たな建物、項目に対して対応できる情報とする。
- ・ 大きなサインマップの部分的な修正を、可能な限り目立たぬように配慮する。

#### ▶ 必要な情報がすぐに分かること

- ・ 必要以上に色を多用して乱雑にしない。
- ・ 関連する情報を近い場所に配置し、視線の動きを複雑にしない。
- ・ 使用する文字は小さくても滲まない適切な間隔で設計する。
- ・ 重要な情報は大きくする、コントラストを高くするなど優先順位を設ける。
- ・ サインの左隅など視線の初めの位置に、重要な情報や利用方法が理解できる情報を配置する。

## 2. サインシステム

サインの種類と案内誘導の基本的な考え方は下図のように考える。



### ● 大学名称サイン（学部、団地名称サイン）

大学や各団地・学部等の存在を表す表示あり、それぞれの入口に設置する。



### ■ Aサイン（六甲台地区案内サイン）

六甲台地区全体と現在地を表示する案内図である。訪問者が最初に見つけられるよう大学・各団地の入口に設置する。表示する内容は各団地と学部、優先順位の高い主要施設とそのアクセスをわかりやすく表示する。また、バス停等の公共交通機関を表示する。



### ■ Bサイン（団地別案内サイン）

団地の入口付近に設置し、団地内の各学部・主要施設と、そのアクセスを分かりやすく表示する。また、団地内のサービス関連施設の位置を表示する。



### ■ Cサイン（学部別案内サイン）

学部の入口付近に設置し、学部内の各棟と、そのアクセスを分かりやすく表示する。学部内のアクセスが分かりにくい場合は内部にも設置する。また、学部の窓口業務の位置を表示する。



### ★ 道しるべ

団地内における主要施設、最寄りの施設への誘導を図るほか、隣接団地（六甲台第2西から東、第2団地）などへのアクセス方向を示す。

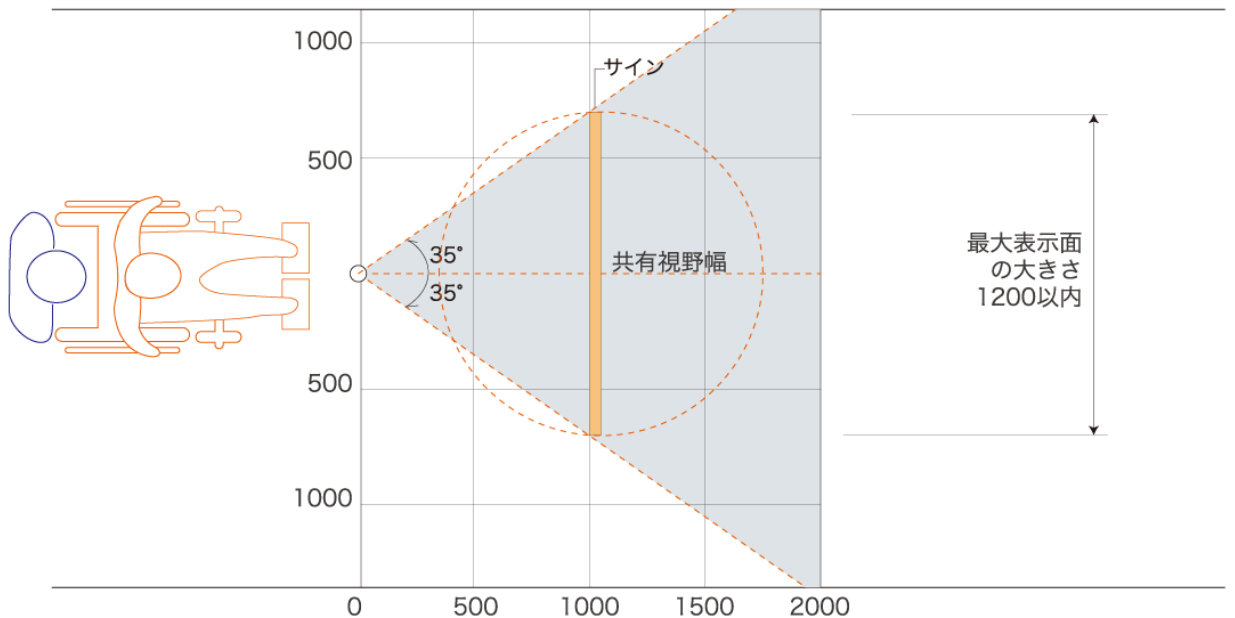
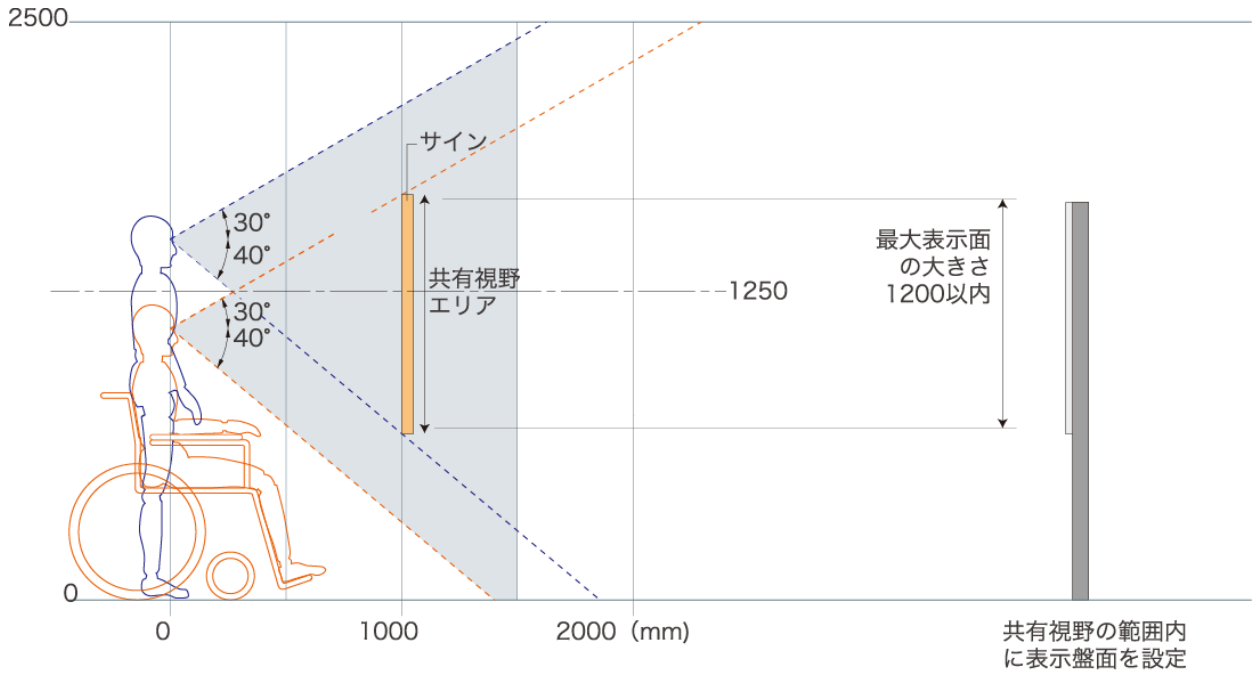
（分岐点等に設置し誘導する。）



### 3. 本体基準 (1) 大きさ

案内（地図）系サインに表示される地図情報には、多くの情報の集積が想定される。そのため必要な情報を得るためには、利用しやすい大きさが必要であり、特に車椅子利用者や高齢者への配慮が重要である。

地図情報の高さは、中心を高齢者や子供、車椅子使用者の視線の高さを配慮し、125cm程度を基本とする。地図面の大きさは、その場を動かずに利用できる範囲として上下左右60cm以内に抑えることとする。



\* 「ひと目でわかるシンボルサイン 標準案内用図記号ガイドブック」

(監修：国土交通省総合政策局交通消費者行政課／編集：交通エコロジー・モビリティ財団) 参照

### 3. 本体基準（2）素材

一般にサインに使用される素材の種類も様々である。安易な材料選定は、後々の維持管理に負担をかけることがある。サイン本体の選定にあたっては、耐久性が高いことが条件として必要である。また、その上で他の特性も配慮し、選定の際の対象素材として下記を選別した。

5段階評価 5——4——3——2——1

良い 標準 悪い

		使用対象素材
鉄	<p>利点 : 最も普及している素材/材料のバリエーションが豊富            欠点 : 防錆処理が必要塗装の塗り替え等のメンテナンスが必要            耐久性(メンテナンス性):2 経済性:4 加工性:5            備考 : 初期投資は安く済むが定期的な保守点検が必要である</p>	
ステンレス	<p>利点 : 耐食性が高い/独特の表面加工ができる            欠点 : 他の素材に比べ高価            耐久性(メンテナンス性):4 経済性:3 加工性:4            備考 : 初期投資は高いがほとんどメンテナンスフリーである</p>	★ 周辺環境により使用
アルミニウム	<p>利点 : 軽い金属である/耐食性が高い/加工方法が豊富にある            欠点 : 強度的に劣る            耐久性(メンテナンス性):5 経済性:3 加工性:3            備考 : 初期投資は高いがほとんどメンテナンスフリーである。</p>	★ 基本的に使用
木材	<p>利点 : 自然の風合いを持つ            欠点 : 風化しやすい(反り、割れ、退色)            樹種によるばらつきが大きい            耐久性(メンテナンス性):1 経済性:5 加工性:3            備考 : 耐久性が劣り定期的な保守点検が必要である</p>	
本石	<p>利点 : 天然素材である/安定感がある/耐摩耗性に優れている            欠点 : 強度にばらつきがある/作業性が悪い            耐久性(メンテナンス性):5 経済性:2 加工性:2            備考 : 初期投資は高いがほとんどメンテナンスフリーである</p>	★ 大学名称サインに使用
コンクリート 疑石	<p>利点 : 型による成型のためいろいろな形状の製作が可能            欠点 : 細工がしにくい            耐久性(メンテナンス性):3 経済性:1 加工性:1            備考 : 初期投資は高いが比較的メンテナンスフリーである</p>	
ガラス	<p>利点 : 高級感や清潔感を与える/劣化の恐れが無い            欠点 : 衝撃に弱い/汚れが目立つ            耐久性(メンテナンス性):5 経済性:2 加工性:2            備考 : 初期投資は高いがほとんどメンテナンスフリーである</p>	

## 4.表示基準（１）（言語と大きさと比率）

文字の大きさに関しては、ページ下部の交通エコロジーモビリティ財団が定めたサイズに従い、和文と欧文の比率に関しては、下記の通りの比率を推奨の基準を定める。行間の高さや欧文の文字高と合わせることで、2行の場合でもバランスが崩れることなく表記されることを狙いとする。

### 和文、欧文1行の場合

**本部（事務局，保健管理センター）**  
Secretariat / Medical Center for Student Health

和文：行間：欧文＝2:1:1

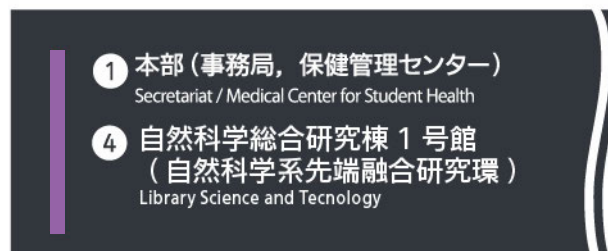
例：和文 24pt 行間 32pt 欧文 16pt  
ポイント数の比率を 3:4:2 の近似値とする。

### 和文、欧文 2 行の場合

**社会科学系アカデミア館**  
**（放送大学兵庫学習センター）**  
Academia Hall for Social Sciences /  
Hyogo Study Center The University of the Air

和文：行間：欧文＝2:1:1

例：和文 24pt 和文行間 28pt 行間 32pt 欧文 16pt  
和文行間 16pt  
各比率を 6:7:8:1:4:4 の近似値とする。



（イメージ図）

視認距離	和文文字高	英文文字高
30mの場合	120mm以上	90mm以上
20mの場合	80mm以上	60mm以上
10mの場合	40mm以上	30mm以上
4～5mの場合	20mm以上	15mm以上
1～2mの場合	9mm以上	7mm以上

視力は0.5程度を想定。これにより一人で出歩ける高齢者の大半を対象にすることが出来る。  
（「交通拠点のサインシステム計画ガイドブック」交通エコロジーモビリティ財団より）

## 4.表示基準（2）（文字の種類）

サインに用いる文字書体は、和文を角ゴシックのUDフォントを原則とし、その中でも「みんなの文字」（イワタ）を推奨とする。また欧文に関しては、空港や駅などで用いられ、海外からの学生に対する親しみやすさを考慮し「Frutiger 55 roman」を推奨とする。書体における「ユニバーサルデザイン」とは、「わかりやすさ」「伝わりやすさ」「見やすさ」に配慮がなされたフォントである。小さくても見やすい、文字と文字の間に最適な間隔が保たれる、印刷がかすれたりしても判読しやすい、などの課題を予め考慮された書体である。見やすいことに繋がる点はそのシンプルなフォルムから生み出される。

フォントはその種類によって雰囲気、表情が変化する。しかし公共の場でのサインには、雰囲気として以上に、見やすさ、分かりやすさが重要になる。現在各社がUDフォントを発売している。今後はこれらフォントの使用が原則となる。



### 数字の2から比較する

比較として、「みんなの文字」とサインのフォントとして用いられる「新ゴ」、「UD新ゴ」を比較する。数字の「2」の内部の隙間を比較すると、新ゴは左側書き出し部分が狭い、UD新語は右側の空間の大きさが小さいなどの違いが見受けられる。

これらの「狭い」部分による影響として、小さい文字、又は遠くから文字を見た際に、形がつぶれて読みづらくなることに繋がる。例えば下段では2と8を比較した、隙間が小さいため文字が混同し、認識しづらいという問題が生まれる。



### 漢字や数字から比較する

漢字の比較では大きな違いは無いが、「みんなの文字」はバランスよく隙間を作り出すことで、少しの差であるが、文字をより明確なフォルムとして認識することができる。

英語の場合は欧文テキストを用いるが、日本語の中で英語を用いる場合、和文フォントを用いる。これらの場合でも、読みやすい文字間隔が保たれる。

## 4.表示基準（3）ピクトグラム

ピクトグラムは絵で情報を伝達するため、言語が異なる外国人にも共通して認識しやすい情報である。国際化の進んだ現在ではさらにその有効性が増大している。また文字に比べて識別性に優れ、情報量の多い時代のサイン計画には欠くことのできない要素となっている。

本サイン計画では、A、B、Cサインにはピクトグラム表示を行う。ピクトグラムは交通エコロジー・モビリティ財団が定め、JIS規格とされた図案を採用する。但し、JIS規格上に無い図案（AEDなど）は、他大学での採用性の高さ、実際に本学の施設環境とのイメージ合致度を考慮し採用する。

また、ピクトグラムによっては、その設備の有無が、施設利用において重要な要素となる場合もある。それらの基準を基に、ピクトの利用個所の分類を下記で行う。

### グループA

多くの学生が使用することが想定される設備となる。広域な案内図である、Aサイン、Bサインにて情報を掲載する。



### グループB

対象の設備の有無が、利用に大きく影響される情報である。

肢体不自由者及び内部疾患の患者が求める車椅子対応機器、AED等を対象とし、Cサイン、建物内案内図において大きく表記する。また、建物表記にも掲載する。



### グループC

建物内部の設備が対象となる。建物内案内図にて情報を掲載する。



参考：交通エコロジー・モビリティ財団のピクトグラム

これは国土交通省の関係公益法人である交通エコロジー・モビリティ財団に設置された「一般案内用図記号検討委員会」の検討を経て、2001年に策定された。この内110項目のJIS（日本工業規格）化案が了承され、平成14年3月にJISZ8210として制定された。その後世界基準（ISO 図記号専門委員会承認）のピクトグラムを目指して検討が推し進められている。

JIS規格策定後、2014年現在までに4度の追加改正がされている。

またAEDマークに対してはJISでの基準がまだなく、各団体が様々なマークを提示し、統一が取れていない現状がある。本学ではPHILIPS製のAEDが数多く設置されていることから、それらの製品つけられている、HEARTSTART ALLIANCEのマークを使用することとする。

## 4.表示基準（4）キャンパスカラーの設定（ユニバーサルカラーの設定）

キャンパスカラーとして色彩を設定することで、マップ上における各キャンパス領域を明確に差別化を図り、対象の施設を地図と一覧から探す際の視線の誘導を円滑にする効果がある。また、道しるべや建物にカラーを表記することで、遠くからでも、色で自らの場所の把握の補助を図る。

色で情報を選別する場合には、イメージとしての情報だけでなく、色覚障害者や白内障患者など光の認識に個人差がある人々に対して判別ができる必要がある。また背景が変化した場合、モノクロコピーした場合等、環境と利用方法にも柔軟に対応できる必要がある。今回、色覚障害に対応し、また明度差を一定で、明瞭具合の差が少ない「ユニバーサルカラー」を定義し、取り入れた。これらは白背景、黒背景においても、色コントラストを適切に抑えることで視認性を確保した色としている。

### キャンパスカラー



### 色覚障害シュミレーション



### 黒背景シュミレーション



### グレースケールシュミレーション



# キャンパスカラー プロセスチャート・色コントラスト (六甲台地区イメージ)

**DIC 140** 鶴甲第2  
C:100 M:10 Y:0 K:0  
色コントラスト

白 3.17:1  
黒 6.63:1

**DIC 176** 鶴甲第1  
C:100 M:10 Y:67 K:0  
色コントラスト

白 3.72:1  
黒 5.43:1

**DIC 160** 六甲台第1  
C:6 M:76 Y:100 K:0  
色コントラスト

白 3.45:1  
黒 6.08:1

**DIC 114** 六甲台第2東  
C:2 M:98 Y:61 K:0  
色コントラスト

白 4.52:1  
黒 4.65:1

**DIC 143** 六甲台第2西  
C:69 M:63 Y:0 K:0  
色コントラスト

白 4.82:1  
黒 4.36:1



## キャンパスカラーの設定 (ユニバーサルカラーの設定)

上記の5色のキャンパスカラーにおいて追加の色が必要な場合は、既存の5色を細分化した10の色を用意する。可能な限りの範囲で色覚障害対応、及び色コントラストを確保した配色を用いることができる。但し、色数が増えるほど、区別が難しくなるため使用する色は最小限に抑えることを推奨する。



**DIC 114** C:2 M:98 Y:61 K:0  
色コントラスト  
白 4.81:1  
黒 4.37:1

**DIC 157** C:0 M:100 Y:100 K:0  
色コントラスト  
白 5.34:1  
黒 3.94:1

**DIC 160** C:6 M:76 Y:100 K:0  
色コントラスト  
白 3.64:1  
黒 5.77:1

**DIC 122** C:0 M:42 Y:100 K:0  
色コントラスト  
白 2.03:1  
黒 10.34:1  
白背景への文字配置、同色へ白い文字の配置は利非推奨

**DIC 362** C:35 M:18 Y:80 K:17  
色コントラスト  
白 3.01:1  
黒 6.97:1

**DIC 176** C:100 M:10 Y:0 K:0  
色コントラスト  
白 3.87:1  
黒 5.43:1

**DIC 217** C:100 M:0 Y:39 K:0  
色コントラスト  
白 3.25:1  
黒 6.46:1

**DIC 140** C:100 M:10 Y:0 K:0  
色コントラスト  
白 3.27:1  
黒 6.42:1

**DIC 181** C:79 M:43 Y:0 K:0  
色コントラスト  
白 4.48:1  
黒 4.68:1

**DIC 143** C:69 M:63 Y:0 K:0  
色コントラスト  
白 5.52:1  
黒 3.80:1

## 4.表示基準（5）コントラスト

サインの表示面と表示内容の色コントラストは、表示要素の可視性・可読性を高める上で重要な要素である。文字など情報を読み上げる必要がある場合の表示面の色彩は、表示要素との明度差を高く保つ必要がある。明度差を数学的に分類する方法として色コントラストの考え方をを用いて色の選定を行う。

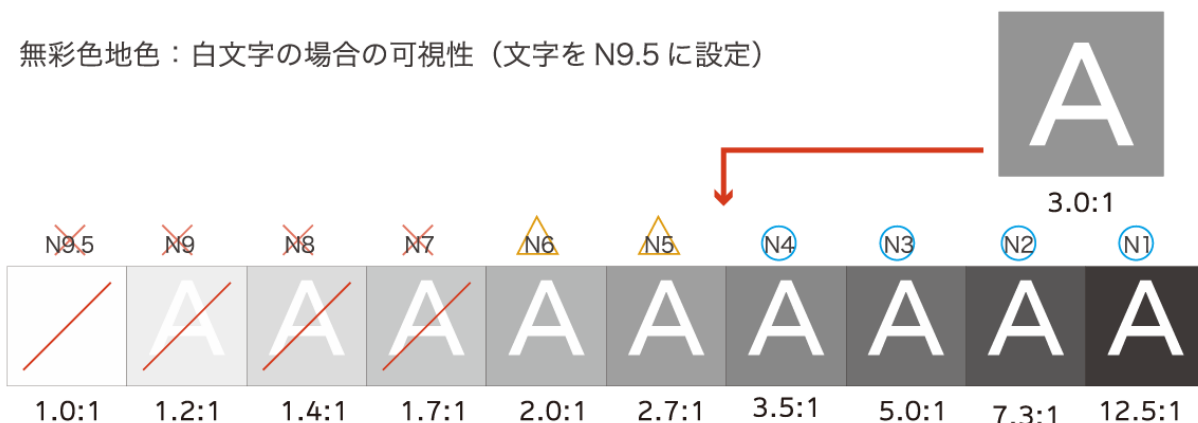
色コントラストの計算式を用いて、色の組み合わせを制限することで、視認性の高い配色を確保する。なお、これらの色コントラストの比率基準は、サイン分野において明確な基準が無いいため、JIS X 8341-3:2010ウェブアクセシビリティにおける色コントラストの項目に則り、前景色と背景色のコントラスト比を3:1以上の差の組み合わせを推奨の基準とする。

無彩色地色：黒文字の場合の可視性（文字を N1 に設定）

○ 推奨配色    △ 非推奨配色    × 利用不可配色



無彩色地色：白文字の場合の可視性（文字を N9.5 に設定）



### 非推奨の配色例



赤と緑  
1.2:1



黄色と白  
2.0:1

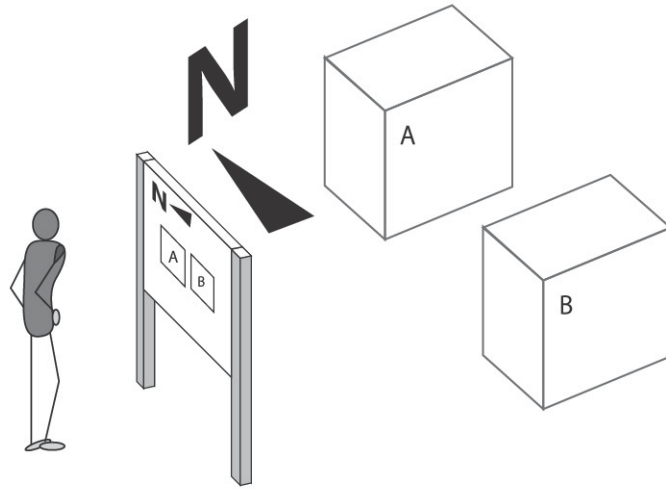


紺とグレー  
1.2:1



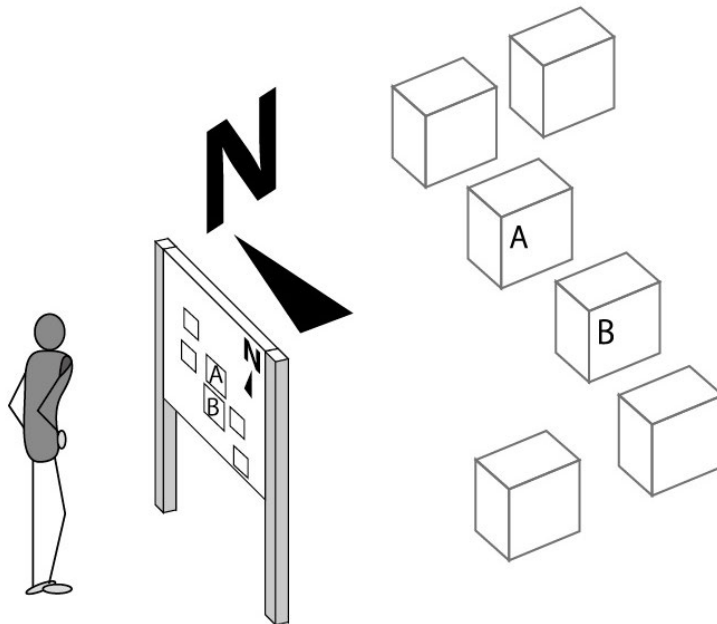
## 4.表示基準（6）向き

地図の向きは利用者が移動方向と地図の方向が合致することが分りやすいため、設置の向きに合わせて表示する。



B, Cサインなど細かなサインに対しての表示の場合地図の北を上にならず、地図、およびサインを見ている人と、周辺にある建物の向きが合致させる。そのため、進むべき方角が端的に判断できる。

公道が表示される場合は、方向感覚が失われるため向いてない。しかし、キャンパス内であれば、建物間の向きをより理解しやすい形にすることができる。

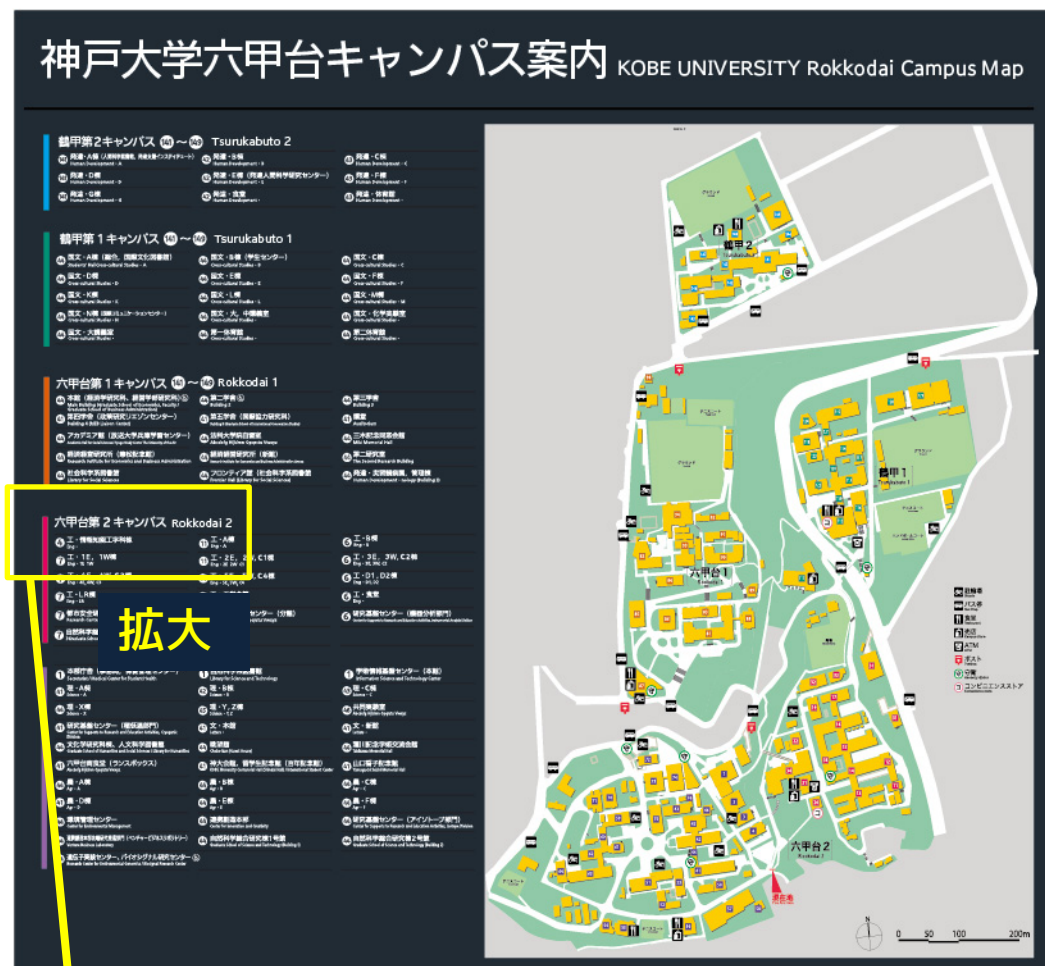


Aサインなど広域の表示（キャンパス全体など）や神戸市全体図など広い範囲の構造を理解する地図等では、北が上の地図に慣れていることが多いため、設置の向きによらず北が上の地図が望ましい。

# 「みんなの文字」を用いたサインデザイン案

## Aサインの変更例

キャンパスの分類を判断しやすくするために、キャンパス名の見出しを大きな文字で表示し、各キャンパスの範囲を帯で色分けを行う。また日本語と英語は並列させ、上に和文、下に欧文を一回り小さい文字で表記する。また、建物名の上下には黒い線を設置し、今後の表記の変更、追加のガイドとなりつつ、変更を目立たなくさせる効果を生み出すために設置する。



# 六甲台第2キャンパス

**1** 本部（事務局，保健管理センター）  
Secretariat / Medical Center for Student Health

## 4.表示基準（7） 管理

一般的に用いられるサインの印刷方法を比較した。サインの表示の特性に合わせた方法を採用する。

5段階評価 5—4—3—2—1

良い 標準 悪い

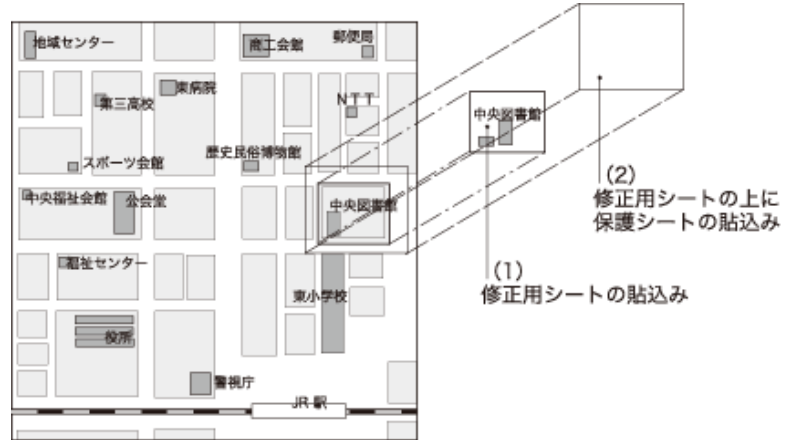
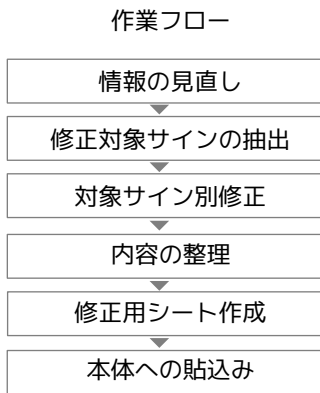
		使用対象印刷	補修可否
手書き	手法 : 表示面に筆などで手書き地図情報のメンテナンス 利点 : 手軽に修正ができる 欠点 : 作業者によって質にばらつきができる／耐久性に問題がある 耐久性 : 1 経済性 : 5 美しさ : 1		部分修正 不可  全面交換 不可
フィルム貼り	手法 : 塩ビ系フィルムを図柄どおりにカットし、表示面に貼り付ける 利点 : コストが安い 欠点 : 表示の取替えが可能 図柄の表現には不向き色彩を限定される 耐久性 : 4 経済性 : 4 美しさ : 2		部分修正 可  全面交換 可
インクジェット印刷	手法 : コンピューターのデーターを4色に分解し、塩ビシートなどに直接インクを噴射する。近年最も一般的な印刷方法。オーバーコート仕様の仕様により耐久性も向上 利点 : コストが安い／頻繁に情報更新する場合には便利 欠点 : 出力する機械によって色にばらつきが出ることがある 耐久性 : 4 経済性 : 4 美しさ : 5	地図系サインの印刷手法として最適	部分修正 不可  全面交換 不可
シルクスクリーン印刷	手法 : 原稿（図柄・文字）を写真処理して、版下を作成版下をシルクスクリーン枠に投影。シルクスクリーン枠を通して表示面上にインクを付着させ図柄を作成 利点 : 精度が高い 欠点 : 表現できる内容が豊富／色彩によってコストが高くなる 写真の表現に不向き 耐久性 : 3 経済性 : 3 美しさ : 4		部分修正 不可  全面交換 不可
エッチング加工	手法 : 表示面の図柄のネガ部分を乳剤で保護し、薬品で侵食して彫りこむ 利点 : 手加工的な味わいがある 欠点 : 長期間の使用が可能 色を使用した場合、退色性に問題がある 耐久性 : 2 経済性 : 2 美しさ : 3		部分修正 不可  全面交換 不可
ステンレス ホーロー熟成印刷	手法 : ステンレスホーロー板に無機顔料を印刷した転写紙を高温で焼成する屋外の点字サインの表示に適している 利点 : 表面はガラス質で覆われるため耐摩耗性・耐薬品性・耐退色性・食性に優れる 欠点 : 色の再現性に若干の難がある／コストが高くなる 耐久性 : 5 経済性 : 1 美しさ : 4		部分修正 不可  全面交換 不可

## 4.表示基準（8） 更新

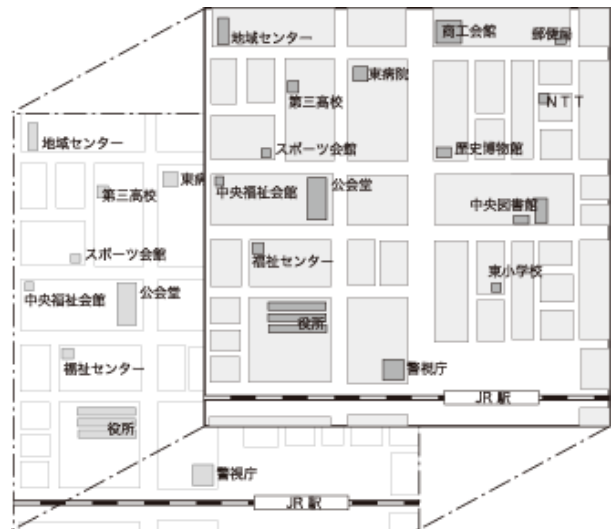
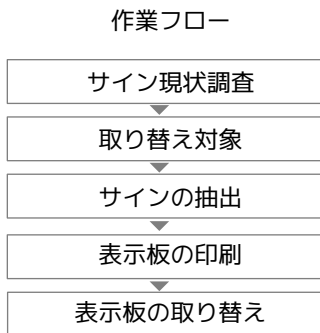
サイン設置後の施設の移転、新設に伴う表示情報の陳腐化は利用者を混乱させ大学の悪い印象を与える。このようなことが起こらないように、表示内容を定期的に維持・管理する必要がある。

### 情報のメンテナンス

#### 部分的な対応方法（修正用シートの貼り込み）



#### 全面的な対応方法（表示板の取り替え）



#### 名称の変更・追加について

建物名の上下には黒い線を設置し、今後の表記の変更、追加のガイドとなりつつ、貼り付けた際の凹凸の影を目立たなくさせる。

## 六甲台第2キャンパス

① 本部（事務局，保健管理セ  
Secretariat / Medical Center for Student

① 本部（事務局，保健管理センター）  
Secretariat / Medical Center for Student Health





## 5.学内案内Cサインデザイン案

理学部 Faculty of Science



## 5. 学内案内道しるべサインデザイン案





## 5. 学内案内道しるべサインデザイン案

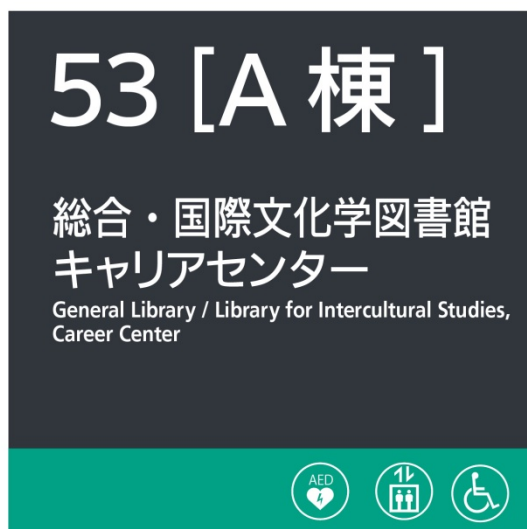


## 6.建物表記デザイン案

建物表記デザインは3パターンを作成した。それぞれのデザインに対して「建物番号、棟名」「建物名（日本語、英語）」「施設情報」を掲載する。

キャンパスカラーを下部に水平のラインで装飾し、キャンパスの統一感を生み出すことを目的としている。またラインを水平にすることで、斜めからでも、ラインが細くならないことを狙いとしている。パターンによって、文字数の制限のほか、視認性に特徴がある。

### デザインパターンA



### デザインパターンB



### デザインパターンC



## デザインパターンA

正方形のデザインでは、上から下へ順番に情報を認識することができ、シンプルな構造が特徴である。また横幅が他のサイズよりも小さく制限されているため、掲示場所の制限を受けにくい。

反面、横幅が他のデザインに比べると小さいため、その分文字数が制限され、文字のポイントを下げる必要がある。またアンダー部分のカラーの面積が他のデザインパターンに比べると小さくなるなどの特徴もある。



## デザインパターンB

長方形のデザインでは、左部分の表記が2段になってしまうため、視線の動きが複雑になる。反面、横幅を十分に取ることができるため、サイズにより文字数の制限を受けにくくなる。またアンダー部分のカラーの面積も大きいため、色が目立ちやすくなる。

情報量に関する制限は小さいものの、横長のデザインでは短手のサイズが小さく、サイン自体の存在感が小さくなることも考えられる。



## デザインパターンC

デザインパターンBを更に長手を大きくしたデザインです。そのため、片持ち梁の方法で壁に垂直に立っているなどの方法を取ることで、視認性の高いサインにすることも可能である。

53  
[A棟]

総合・国際文化学図書館  
キャリアセンター

General Library / Library for Intercultural Studies,  
Career Center



45

工学会館

Cross-cultural Studies · Chemistory Laboratory

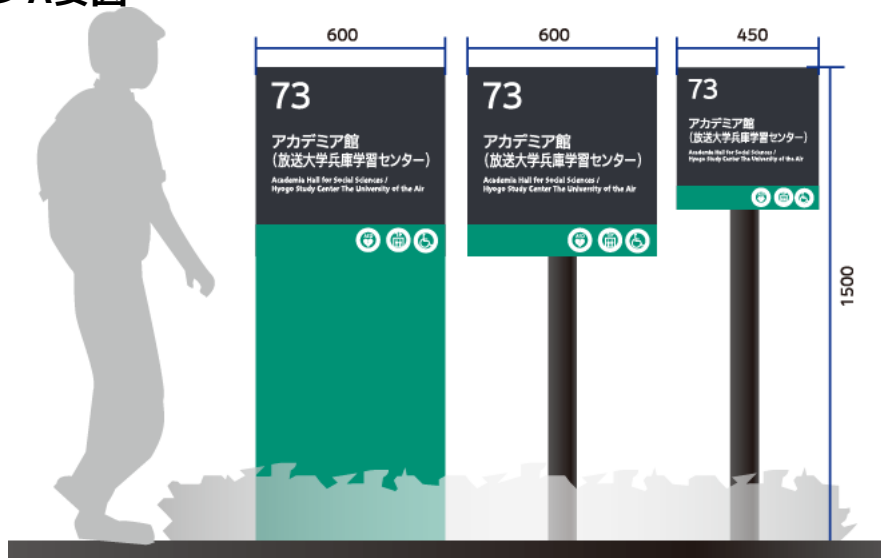


141  
[A棟]

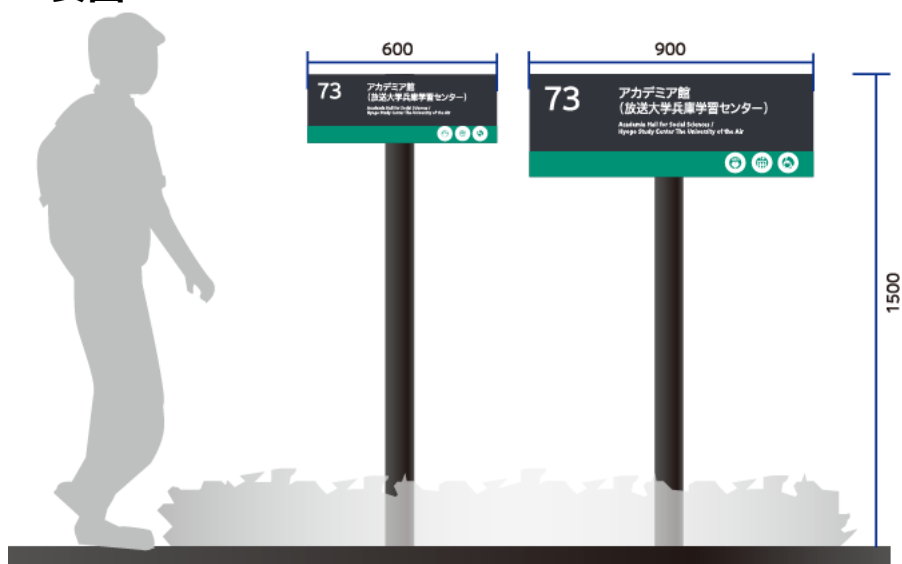
総合・国際文化学図書館  
キャリアセンター

General Library / Library for Intercultural Studies,  
Career Center

## 1/20パターンA姿図



## 1/20パターンB姿図



## 1/20パターンC姿図

